

特集 着こなしから心構えまで

## おしゃれ 上手になる 100のコツ

きれいな色の  
ニットで  
出かけよう  
ベースメイクの  
新常識

東京特集 第3弾 |  
わずか半径2キロの徒歩圏内

## 東京 文化資源区を そぞろ歩き

上野 音楽と芸術の街 小曾根 真、神野三鈴  
谷根千 生活文化の街 坂井真紀  
本郷 学術文化の街  
神保町 出版文化の街 西 加奈子  
湯島、神田 精神文化の街 神田松之丞



連載「次世代への手紙」

岸 恵子

連載「時代を創る男たち」

中村倫也

お花見弁当

女性の働き方、  
生き方いろいろ

水回りのリフォーム

その不調、  
寒暖差疲労かも？

「仕事でも、家庭でも  
難しいことは起きる。でも  
居場所が二つあると、両方に  
いい作用があるんです」

●日本国際生活体験協会 事務局長補  
遠藤幸江さん(五二歳)

### background\_07

#### 経歴

- 20歳 イギリスで1か月のおホームステイを経験。
- 22歳 日本国際生活体験協会(EIL)に就職。
- 30歳 結婚して一度退職。岩手で英会話学校の事務として働く。
- 33歳 離婚後東京へ。EILに再就職。
- 49歳 父親が亡くなり、母の介護のため岩手へ。リモートワークで働く。

大学三年生の時に、イギリスに二か月ホームステイしました。その時利用したのが、学生の留学やホームステイの支援をする「日本国際生活体験協会(EIL)」でした。ホームステイがとても楽しかったこともあり、ほかの人にも体験してもらいたくて、新卒でこの協会に就職しました。東京の事務所に勤務していましたが、二〇一五年に父が亡くなり、病気の母のことが心配で岩手の家に戻りました。

た。以来、家をオフィスにして、リモートワークで働いています。私の主な仕事は海外からの留学生の受入れで、学校やホストファミリーとの打合せなどで受入れ先を訪問することもあります。岩手で仕事を始めてからは、受入れだけでなく、派遣の業務でも、東北地域は私が対応することが多くなりました。地方では、同じ地方のスタッフが行くこと安心してもらえんというところもあります。

留学生を受け入れてくれる家庭のかたにはまず無理をせず普段どおりでいいしというところ、相手は、空気を汲む文化はない。子どもなのだというのを伝えます。例えば、お皿を洗いましたよとか、と外国人の手が聞いてきたとします。その時に、「いいわ、そんなことしなくて」と言ったら、相手はもう二度と聞いてこないんです。また、日本人はもてなしという気持ちから、最初は無理をしすぎてもいいから、でも相手は普通の暮らしの中に入れてもらったと考えているから、こちらが期待するほど感謝しない。どちらも思えないんです。そういつたことでのすれ違いがよく起きます。コミュニケーションのとり方は、お困りもあるのではお互い変えようがありません。ただ、お互いが違うということを知らなければいけません。そんなことを仕事で伝えていたら、母との関係でストレスがたまることも最近は少なくなりました(笑)。仕

事でどうしようもできないことはしよつちゅう起きます。また家庭でも、なぜこんな無理を言うの、と思うことはあります。でも、無理を言っても相手は変わりません。と体感してからは大抵のことは受け流せるようになりましたね。私の場合は、仕事と、母との暮らしという二つの居場所があることが互いにいいほうに作用しているんだと思います。



大学3年生でイギリスの家庭にホームステイした遠藤さん。「EIL高校生交換留学プログラム」では、アメリカやヨーロッパはもちろん、台湾やタイ、南米や北米まで、世界中の国々に留学をすすめている。高校生のみならず、個人でホームステイできるシステムもある。http://www.eiljapan.org



「留学生たちは、いわば小さな外交官のようなもの。本人だけではなく、母も異文化の影響を受けます。それを近くで見られるこの仕事はとて「有意味」と話す遠藤さん。